

公開シンポジウム

いま、ジャーナリストに何が可能か

～体験から語るジャーナリズム論～

日時：3月2日（日）午前10時～12時20分

場所：早稲田大学、早稲田キャンパス、14号館402教室

主催：早稲田大学ジャーナリズム教育研究所＋グローバルエデュケーションセンター

それぞれに異なる立場の、実績のあるジャーナリストから体験や思いを聞く。

何をどう書いてきたか。自分の座標軸とは。記者としての転機は何だったか。何を報じるべきか。「女性記者」の視点。調査報道のいま。権力とどう対峙するか。一人でできること、集団でやるべきこと。中央と地方。若い記者をどう育てるか。若者へのアピールとアドバイス。

■パネリスト＋司会

高田昌幸（高知新聞社会部副部長）

板橋洋佳（朝日新聞特別報道部記者）

山城紀子（フリーライター、元沖縄タイムス編集委員）

司会＝花田達朗（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

高田昌幸（高知新聞社会部副部長）

北海道新聞記者時代に、取材班の一員として「北海道庁の公費乱用の一連の報道」で新聞協会賞を受賞、取材班代表として「北海道警の裏金問題取材」で日本新聞協会賞、日本ジャーナリスト会議大賞、菊池寛賞などを受賞。その後、フリーランスを経て、高知新聞記者へ。著書に『真実—新聞が警察に跪いた日』（柏書房）、編著書に『希望』（旬報社）、（『@Fukushima—私たちの望むものは』（産学社）、『日本の現場 地方紙で読む2012』（旬報社）など。

板橋洋佳（朝日新聞特別報道部記者）

下野新聞（栃木県）記者時代から調査報道に取り組む。朝日新聞に移って、「大阪地検特捜部FD証拠改ざん事件」で日本新聞協会賞、石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞などを受賞。特別報道部の連載企画「プロメテウスの罠」では3.11後の米国政府や自衛隊の隠された動向を取材・執筆。共著に『証拠改ざん—特捜検事の犯罪』（朝日新聞出版）、『プロメテウスの罠—徹底究明！福島原発事故の裏側 4』（学研パブリッシング）など。

山城紀子（フリーライター、元沖縄タイムス編集委員）

学芸部・社会部記者、学芸部長などを経て、編集委員兼論説委員。「医療過誤訴訟の周辺」「共生社会を拓く」「医の今」などの連載を担当。女性問題をはじめ、子どもや老人、障がい者問題、医療や福祉をテーマに取材・執筆。退社して、フリーライターへ。著書に『心病んでも—あたりまえに向かって』（ニライ社）、『人を不幸にしない医療—患者・家族・医療者』（岩波現代文庫）、『あきらめない—全盲の英語教師・与座健作の挑戦』（風媒社）など。『世界』（岩波書店）の連載「沖縄（シマ）という窓」に執筆中。

